

(陳受28第9号)

市民の声をじゅうりんした政策を強行し二選公約を破壊した上尾市長の辞職を打診する
意見書提出に関する陳情

受理年月日

平成28年2月15日

陳情者

埼玉県北葛飾郡杉戸町倉松1-7-27
小畑 孝平

陳情の要旨

近ごろ、他人様との約束のみならず、みずから発した公約及び条例すら守らぬ、平気であそを吐く、気まぐれかつ自己中心的な政治家が多くて困ったものだ。みずから制定した多選自粛条例をみずから破り四選を果たした、埼玉県知事上田清司氏といい、みずからの二選公約を破壊し三選した埼玉県上尾市長島村穰氏といい、2万パーセントしないと言っているどこかの徹氏といい、何ということか。子どもたちに対して、みずから「うそ吐きは泥棒の始まり。」と甚だ上からの視線で偉そうに指図している当の大人たちこそが、平気であそを吐いているではないか。これだから、近ごろの大人たちには詐欺師が蔓延しているのだ。多選または現職続投の結果が、いいか悪いかの詭弁では済まされない。鉄道がダイヤグラムを、その時の気分で大きく無視すること自体が、公共の福祉を破壊する反社会的な行為であるということ、ただそれだけなのだ。しゃくし定規になっても、約束どおり、ダイヤグラムどおり運行し、任期満了で潔く次世代へバトンタッチするのが、子どもたちの明るい未来または地球の平和を築く、公共の福祉を代表する公人たる大人のなすわざである。そもそも、上尾市長は、上尾市民の御意見を無視した政策である図書館移設を強行しており、これを棚に上げ、さらに多くの要望を得たから公約を撤回してまで立候補してあげた旨おっしゃるが、過去最悪の投票率の中での組織票を勘案し、投票放棄の有権者を当然に現職不支持とみなせば、他の候補者の票を合算するまでもなく、過半数の上尾市民が現職を支持していないことなど一目瞭然であり、埼玉県民の御意見を無視してまで小児医療センターを都心部へ強行移設せしめながら、多くの埼玉県民の期待を無視してまで退陣するわけにはいかないからあえて立候補した旨支離滅裂な言い訳をし、投票率が著しく低い中での組織票で再選した平成27年8月9日(日)の埼玉県知事選挙とそっくりの構図である。断じて許しがたく、決して看過できない。

以上のことから、上尾市議会に対して、上尾市長に上記趣旨を伝達し、辞職を打診することを求める意見書を提出されたい。